

チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F
TEL/FAX: 092-260-3989
E-mail: jimmu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

130

特集 福島訪問レポート

CONTENTS

ふくしま訪問に同行しました / コラム ミンスクの1日 /
軍事力よりも自給力を / リサイクル募金きしゃぽんのご紹介とお礼 /
シンカブルのご紹介 / ボランティアのご紹介 / 2022年度事業・決算報告 /
支援者のお名前とメッセージ



ベラルーシで出会った子ども
(2013年、モギリョフ)

ホームページではカラー版の
チェルノブイリ通信を公開中です。

↓アクセスはこちらから



本紙はチェルノブイリ医療支援ネットワークの活動を
支援して下さっている皆さまへお届けしています。
送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

ゆうちょ銀行	記号 17460 番号 52319621
	他の金融機関からは 七四八支店 (普) 5231962
楽天銀行	ジャズ支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	



写真からふくしまの今を知る

ふくしま訪問に



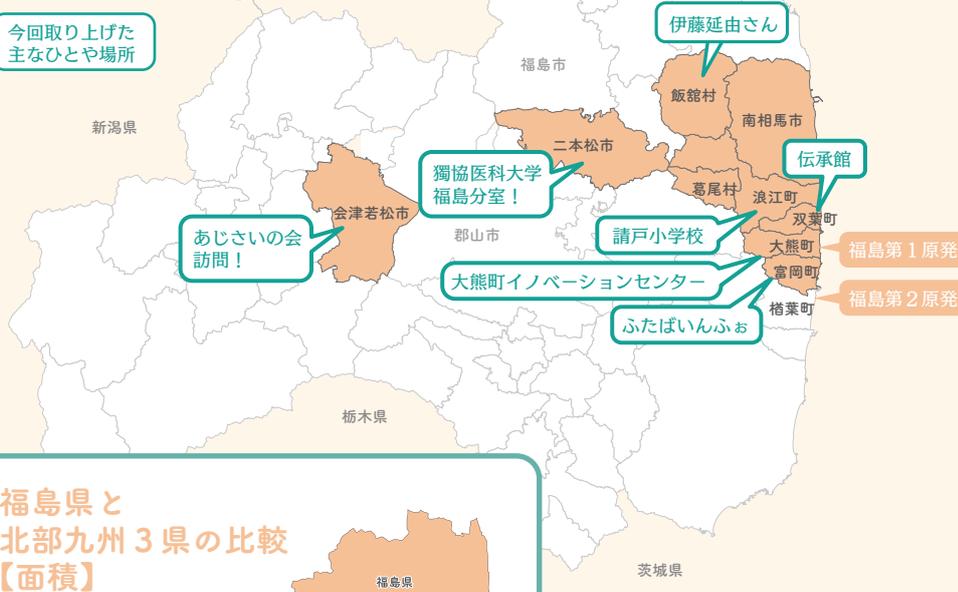
同行しました！

2022年9月3日～9月8日の福島訪問は、129号でお伝えしました。今回は同じく訪問した同行者からの「訪問レポート」です。写真を多く掲載することで、読者の皆さんに現地の表情が少しでも伝わればと思います。

ふくしま訪問2022秋・訪問先市町村

2022年9月3日(土)～9月8日(木)

今回取り上げた
主なひとや場所



福島県と 北部九州3県の比較 【面積】

福島県: 13,784km² (3位)

3県合計: 13,769km²

福岡県: 4,987km² (29位)

大分県: 6,341km² (22位)

佐賀県: 2,441km² (42位)

(日本全体: 37万7,975km²)

※国土院 令和3年全国都道府県市区町村別面積集(10月1日時点)(令和3年12月21日公表)29



▲東北3県の復興現状が、写真で比較されていた(伝承館)。



▲原発施設内で使われていた記録板が、そのまま展示されていた(伝承館)。



▲1,650万円(設置工事費込み)といわれる椅子のオブジェ(飯舘村)。



📷 原発事故

双葉町

- ▲奥に見えるふたつの建物が中間貯蔵施設。最終処分は30年後に福島県外で行う予定だという。
- ◀(上)伝承館内の掲示。次世代への影響が懸念されている。(中)周辺は原発事故関連施設以外では物産館がひとつだけ。(下)土曜夕方のJR双葉駅前。ものの気配を全く感じさせない無機質な雰囲気が漂う。駅舎の新しさが際立つ。



📷 津波

双葉町

- ▲伝承館屋上から太平洋を臨む。発災から10年以上経つが、復興はまだまだこれからという印象。それくらい何もなかった。
- ◀(上)海岸線から300mに建つ請戸小学校は、津波から避難した児童が全員無事だった。現在は福島県唯一の震災遺構。(中)児童が津波から逃げる様子を紙芝居風に伝えていた。(下)防護服がないと外は一切出れなかったことを再認識。



飯館村



国道6号線



線量計測

飯館村



二本松市

- ▲市民の立場で線量計測を続ける飯館村在住の伊藤延由さん。多額の費用がかかる除染作業は、難航しているという。
- ◀(上) 私たちも線量計測を体験。山林は今でも要注意だという。(中) 国道6号線沿い(原発近く)では、数値は如実に上がった。(下) 獨協医科大学の分室ではホールボディ・カウンタという機器を使って、体内の放射能が測定できる。



甲状腺がん裁判

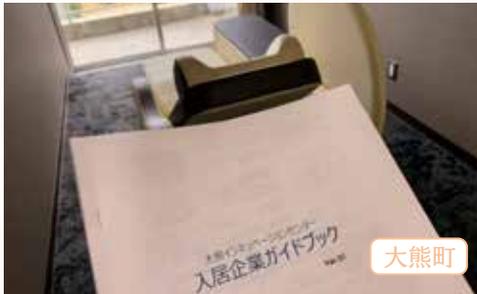
会津若松市



- ▲あじさいの会は、甲状腺がんで苦しむ特に若年層をサポートしているボランティア団体。裁判も支援している。
- ◀(上) 事務局長の千葉さんから裁判の現状などをうかがった。(中) NEWSの可愛いキャラクターイラストは、原告のひとりが描いているとのこと。(下) 継続的な寄附は随時受付中(QRコードはready for)。



大熊町



大熊町



双葉町



富岡町

- ▲ 双葉駅前に移転した町役場は、帰還困難区域の一部解除を受けて訪問中に業務を再開した。
- ◀ (上)施設はどこに行っても素晴らしく新しい。
(中)大熊町では、小学校をリノベーションして県外からの企業誘致を行っていた。入居も既に始まっていた。
(下)「ふたばいんふお」。双葉郡内の情報が勢揃いで重宝した。

同行者プロフィール



せりたひろし

広告デザイナー
中間支援NPO理事

1997年独立以来、NPOやNGO、社会福祉協議会などの紙やウェブの広報物製作を多く手掛ける。最近では広報研修や講座の講師も精力的に務める。またインスタでは「あさからデザイン塾」というオンラインのデザイン塾を運営。

チェルノブイリ医療支援ネットワークさんとは、数年前にサイト製作を担って以来のお付き合いです。



公式インスタ



同行してみて

冒頭ページに記した福島県と北部九州の比較図にあるとおり、福島県は大きな県だと思いました。私が住む北部九州3県とほぼ同じ面積ですから、ちょっとびっくりです。

初めて訪問しましたが、その大きさどおり浜通りから会津まで津波や原発の影響も多様だということが、少しですが現地に行って実感できました。一緒に行った大学生も大なり小なり実感したことだろうなと思います(詳しくは前号をご覧ください)。

そして、何より復興はまだまだということだと思いました。原因は原発事故です。これを忘れてはいけない。そのことを強く感じた訪問でした。

大学生のレポートは、公式サイト(pdf)からご覧いただけます。



初雪が降り始めたまちでは新年のお祝いにむけて
クリスマスツリーが飾られるように
(近所の公園にて)



田中仁の連載コラム
秋だより



こんにちは。秋に戻ってきたミンスクからのレポートです。東京からワルシャワ(ポーランド)経由でヴィリニユス(リトアニア)まで飛び、そこからバスに乗りかえて陸路で現地入りしました。久しぶりのまちの様子を、自身の新生活とともにお伝えします。

秋期のミンスクでは天候が変わりやすく、今年9月が例年より寒めで10月は比較的あたたかい日々が続きました。11月中旬になると初雪が降り積もり、家族連れや子供達が雪玉をつくったりソリ滑りで遊んでいる姿がよく見受けられます。寒波到来に震えるのではなく、美しい白銀の世界に心を踊らせている様子でした。



夏前に会った時の成長したチホン君と
妹アンゲリーナちゃん(写真右側の二人)

そんな中、CMN訪ベラのメンバーとも面識がある懐かしい顔ぶれと再会しました。よく町案内や観光取材を手伝ってくれていたチホン君(通信N°. 113派遣報告②、コラム11月だより参照)は見違えるほど立派に成長していました。

190センチを越える体格で端正な顔立ちの青年になり、技術系カレッジの卒業を間近に控えるなか研修で頑張っています。前回の訪ベラ時に資料調査へご協力いただいた国立大学の図書司書の皆さん(通信N°. 117訪問レポート②参照)にもお会いしました。あの時のサポートをあらためて感謝すると、笑顔で「ぜひ、またお越しください!」と伝言を頼まれました。



訪ベラ時の資料調査をさせてもらった
図書館の司書の方々



本ニコライ堂inミンスク
(写真奥)



日本ニコライ堂inミンスク
のパーヴェル神父



(上) 語学クラスの教え子たちと



(下) 語学クラス授業風景

私はその図書室があるジャーナリズム学部へ学位取得を目指して今も通っています。大学院課程は修了試験をパスしており、論文が認められるのを待つのみとなっています。そのため時間に余裕ができたので、いろいろと新しいことにチャレンジしています。

まずは、アパートを借りての一人暮らしを始めました。専用サイトで検索した部屋をいくつか見せてもらい(家主と不動産業者の立ち会いのもと)、2Kのアパートに決めました。大型商業施設も隣接する地下鉄ヘカメナヤ・ゴールカノ駅近くの物件です。最初、家主さんに1ヶ月分の家賃約4万円と不動産会社の方にはそのまほどの手数料を支払い、一緒に住宅登録センターへ行き手続きをして契約完了です。大家さんは明るく優しいおばあさんで、家賃を少ししまけてもらい、掃除も定期的にサービスしてくれます。こちらの平均的な賃料で日本にもあるような額ですが、光熱費は月3千円ぐらいに抑えられます。物件を購入する場合は日本と比べてもだいぶ安いので、多くの人が自分の家を持ちたいと思っています。

便利な住まいが見つかる、その地区にある正教会で日本文化を広める活動に携わる機会に

恵まれました。この度、長くお世話になっていた日本ニコライ堂inミンスク(通信NO. 126コラム参照)直属のジャパン・クラブの文化活動を任されることになりました。教会の敷地にある日曜学校建物内の一角は日本の文化を伝える展示品や書籍が並ぶコーナーとなっており、そこで定期的に言語を教えながらイベントを企画・開催していきます。どれも初めてのことばかりですが、力になってくれる教会の方々や語学クラスへ通う元気いっぱいの子供達に支えられながら、とても新鮮な気持ちで取り組んでいます。

10月からスタートした語学クラスで学ぶのは12歳から14歳の年齢層が多く、アニメ好きや訪日希望者、何か新しい発見を求めて来る子など、動機や目的は様々です。日本語は教えるのも学ぶのも想像以上に難しく、授業の後半は集中力も切れてその場にある日本のオモチャ(折り紙、独楽、百人一首の坊主めくり等)を使って楽しみます。みんなで幼稚園児のようにしゃぎ回って遊んだかと思えば、お互いの学校生活について夢中になってディスカッションをすることもあります。例えば、こちらの子供達が授業中に手を挙げて答える時のしぐさとウルトラマンのス

ペシウム光線の構えがそっくりなのを面白おかしく真似ることもあれば、彼らの教育環境について詳しく話をする機会もあります。現地では所属する学年・学校によって一部(午前制)と二部(午後制)に通う生徒に分かれており、宿題やテストもしっかりこなして10段階評価の最低でも3以上を取れるように頑張らないといけません(2以下だと留年してしまうことがあるからです)。さらに、学校以外でも積極的に習い事に行くなどして、できるだけ空き時間がないよう努める子が多いようです。退屈で憂鬱にならないようにするためとか。このように、子供達の声をかきける有意義な時間ともなっています。

11月に入ると、このジャパン・クラブ主催で日本文化祭が行われました。記念すべき第一回は秋田犬の紹介イベントでした。前に取材でお世話になったAkita Ainu専門トレーナーのタチアナさん(通信No. 125コラム参照)に協力してもらい、実際に連れて来てくれた赤毛の秋田犬2頭(女の子の成犬と仔犬)との出演が実現しました。日本を代表する犬と直接ふれ合える文化交流会開催は初めてのことであったのではないのでしょうか。会場となった日曜学校の



手を挙げて答える時のポーズ

室内は大勢の参加者で一杯になり、主役の秋田犬に熱い視線が集まりました。子供が圧倒的に多く、レクチャーを聞きながらも、待機している犬達に次々と近づき撫でていきます。全てのプログラムが終了しても興奮さめやらず、魅力的な秋田犬となかなかお別れができません。満場一致で「あの子がいちばん立派だった!」と終始おとなしく撫でられ続けた4ヶ月の仔犬にMVP・敢闘賞として特別なご褒美をあげたいぐらいでした。日本の秋田犬とベラルーシの子供達。まわりにいるみんなを自然と笑顔に、そして幸せな気持ちにするような、どこか共通した不思議な力を持っています。そんな彼らの純粋な心に魅せられた催しとなりました。



秋田犬イベントから(教会側からの提供写真)



秋田犬紹介イベントでレクチャーするタチアナさん

こういった素晴らしい時間を共有できるすばらしい仲間ができたことに胸がいっぱいです。皆さんの元気ももらいながら、その時そのときを大切にミンスクの、今、を歩んでいます。



雪積もる町



(上) 天使の羽を雪上に型どる

(下) ソリ遊びは大人気



真冬のミンスクからレポートです。昨年この時期(年末)はクリスマスや新年に雪が積もってくれるかヤキモキするほど暖かでしたが、今冬は寒波が特に厳しくて11月半ばから見渡す限りの雪景色がずっと続いています。除雪してもしてもすぐに深雪となり、そのうえを歩くのには大変なエネルギーがいります。マイナス10度以下の気温が当たり前で、風が強い日に雹が顔にあたり痛いことも。

それでも、この白銀の世界でできない雪遊びに喜ぶ子供達の姿が多々見られます。様々な

ボードを使ったソリ滑りや雪だるま作りのほか、透き通るようにきれいな氷柱を探してきたり、仰向けに寝そべった雪上で真横に広げた両手をかくようにして天使の羽を彫ったりする伝統的な遊びで楽しんでいます。

室内は熱湯管が張り巡らされていて半袖で過ごせるぐらい暖まっているので、外から戻ってくるとあまりの気温差にしばらくブーツとなります。体が温まるスープ料理等がより美味しく感じ、食後はすぐにウトウトしてしまいます。部屋の温かさは常に一定で保たれているので冬の起床は楽です。寒くて布団から出られないといった感覚はありません。

今回は、チェルノブイリと福島で起きた原発事故について小・中学生の生徒達と話し合ってみました。前回の2022年11月だよりでも紹介したジャパン・クラブに通う子供達のうち11〜14歳の四人が協力してくれました(各両親同意のもと)。参加者は6年生のクシューシャさん(11)とニコルさん(12)、7年生のイヴァン君(13)、8年生のリーザさん(14)です。今までこのテーマでインタビューした中ではもっとも若い年齢層となります。



時には真剣に学び



左から

ニコルさん、リーザさん、クシューシャさん、イヴァン君
(クシューシャさんのデジタル絵画作品と記念撮影)

以下ディスカッション内容…

田中 みんなはチェルノブイリ原子力発電所事故のことは知ってるかな？

全員 うん、知ってるよ。

ニコル、リーザ でも、事故が起きた日付は正確に覚えていない。

クシューシャ 1986年だよ。

イヴァン そう、その年の4月26日に。

田中 どこでどのように知ったの？

イヴァン 学校で、5年生の時に「生活安全基礎」の授業科目で。それから、両親も話していた。

ニコル わたしは家で。家族からこのことについてきいたのを覚えている。

リーザ 音楽コンクールに参加した時、その場で事故の黙祷や経緯説明が行われて。その後、学校でも同様のことを教わったけど、家でこの話が出ることは特になかったかな。

クシューシャ わたしはまず家族からきいて。その後、4年生か5年生の時に「生活安全基礎」の授業で。

田中 2011年に日本の福島で起きた原発事故については知ってる？

クシューシャ、ニコル、リーザ うーん、よく知らない。

イヴァン 僕は、そこで大きな地震と津波があったとはきいてたけど。

田中 日本の福島でも復興に向けて頑張っている人達に何かメッセージはあるかな？

イヴァン 放射線の被害を受けてしまった方々の一日も早いご回復と無事を祈ります。そして、事故が二度と起こらないことを願いたいです。

リーザ わたしも、今後はこのような悲劇がないように願うばかりです。

クシューシャ、ニコル わたし達も同じ気持ちです。

チェルノブイリであった悲劇は四人とも知っていましたが、福島で起こったことについてはこの時はじめてきいたような印象でした。事故発生の直前に生まれた世代（2011年）だからでしょうか。

つづいて、協力してくれた子ども達が憧れを抱く日本(文化)について語ってもらいました。先ほどの真剣な表情から一転、たちまちリラックスした笑顔へと変わり口調も滑らかになります。

以下インタビュー内容..

田中 みんなはここで日本語・文化を学び始めたばかりだけど、そのきっかけは？

クシューシャ わたしが日本(語)について知ったのは、アニメ「NARUTO」を見た時。最近では(浮世絵) 版画の描写に魅了されてる！

リーザ 4〜5年生の時に知り合った友達がかっかけよ。彼女はいつもノートに日本語の言葉を書き留めていて、簡単なフレーズをわたしにも教えてくれたりした。一緒に独学していた



イヴァン君は乗り物の
模型づくりも得意

頃もあつたけど、しばらくの間やめていて。でもまた一から勉強したいと思ったの。やはり、いろいろなアニメ作品が好きなので。

ニコル わたしは幼いころ日本に住んでいたことがあって。こっちでは日本語で話す機会がなかったけど、またあの頃のようにしゃべれるようになりたいくて勉強してる。日本といえば美味しい食が一番に思い浮ぶなあ、特に寿司が大好き！

田中 みんなの将来の夢は(日本語を使うわないに関係なく)

イヴァン この言語を習うこと自体とても興味深いし、チャンスがあれば日本に行ってみたいなあ。



ディスカッション前に文化イベント
「浮世絵の会」に出演するクシュー
シャさん(写真左)
(提供写真)

クシューシャ ここでの教育課程修了後、日本に住んでプログラマーかITデザイナーとして働きたい！

リーザ 今はまだ具体的な目標があるわけではないけど、日本で(日本語を使って)自己実現してみたいし、全ての可能性を探りたいの。

ニコル わたしは日本でファッションモデルになりたい。そのために日本語を活かしてみせる！

田中 日本を訪れた時に体験してみたいことは何？

リーザ 観光名所を巡って、食事を楽しんで、たくさん面白いことに出会いたい！

クシューシャ わたしは、日本に住む人々の特徴や性格を知りたい。外国人への接し方とか。いろんなお店を回って、どんな食料品があるのかも見てみたい。とても面白い経験ができると思う。

イヴァン リーザも言ってるように、僕も有名な観光スポットを訪れて、和食も試してみたい！そんな風に文化体験ができれば。

ニコル 今度(何年かぶりに)日本へ行った時は、自分のお気に入りの着物を羽織って、ぜひまた美味しい寿司や蕎麦を食べたい。

日本への興味は尽きない四人ですが、ほかにも様々なことにチャレンジして自分の才能を試しています。クシューシャさんはデジタル絵画クラスに通いデザインを勉強中、ニコルさんはモデル教室でファッションコーディネート・ウォーキングレッスンを受け、イヴァン君は水泳を習い、リーザさんは音楽学校で歌とピアノの練習をしています。

みんな今日もポジティブに自分探しの旅を続けています。一度しかない子ども時代を思いっきり子供らしく明るく生きる彼らの元気な声を届けました。この純粋な心を持ったまま魅力的な大人へと立派に成長していく四人の将来が今から楽しみです。

田中仁(たなかひとし)



ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

通信129号では福島県産の棚田米と杵つき餅のチラシを同封させていただきました。



たくさんの方にご購入いただき、ありがとうございました。

生産者の菅野さんよりお礼のお手紙が届きましたので、ご紹介いたします。

軍事力よりも自給力を

ロシアによるウクライナ侵攻からまもなく1年となりますが、未だに収束の目途が立たず、同じ原子力災害にあった福島として心を痛めています。そして原発が攻撃の対象になる映像を間にあたりにすると、原発再稼働どころか原発をゼロにすることが国の役割ではないかと思えます。原発事故から12年が経ってもふるさとに戻れない住民からは、「原発再稼働なんてとんでもない。私たちを置き去りにするのですか」という声が上がっています。さらに軍事には軍事で対抗するという動きが加速している情勢が強まって、政府が軍事力を増強するとして復興所得税まであてるという報道に県民からは怒りの声が上がっています。「軍事よりも私たちの暮らし、生業を大事にしてほしい」という思いはあたりまえの願いです。

僕たち農家の状況も燃料高騰、肥料高騰、飼料高騰で厳しさが増しています。昨年近所で廃業した酪農家が「これだけ餌代が上がって乳価が安くてはやっていけない。自分も高齢なのでみぎりをつけた。」とさみしそうに話します。

今こそ軍事力ではなく自給力こそ大事にするべきではないかと思えます。その意味でも地域での支え合いのしくみを大切にしながら棚田を守っていきたいと思います。

昨年はこの棚田米と杵つき餅のご支援をいただきありがとうございました。

今年も雪が解けて黒い土が顔を出し、耕して種をまく農の営みを続けていきます。



2023年2月 立春

あぶくま高原 遊雲の里ファーム 菅野正寿



古本募金 きしゃぽん

ご支援・ご協力をありがとうございます！

読み終えた本やCDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんのご寄付をお寄せいただいております。

誠にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします！

◀ これまでにお寄せいただいた寄付額 ▶

◆◆ **1,238,155**円(414名) ◆◆

- ◆ 2017年～2020年 810,147円 (290名)
- ◆ 2021年1月～12月 292,268円 (80名)
- ◆ 2022年1月～12月 135,740円 (44名)

あなたのご自宅や職場に眠るお宝が

チェルノブイリ支援につながります



その他、懐かしのおもちゃ、プリキ玩具(昭和40年代以前のもの)、フィギュア、プラモデル、鉄道模型、洋酒、テレホンカード、商品券、切手、ハガキ、年賀状、カメラレンズ、模型、絵画、万年筆など…

クレジットカード決済
シンカブルのご案内



クレジットカードで寄付ができる
“Syncable(シンカブル)”を導入しています。

チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページや左のQRコードからアクセスが可能です。



お手持ちの端末でお読み取りください

福島へ行ってきます

2023年2月28日(火)～3月5日(日)まで福島県を訪問します。

福島第一原子力発電所近郊や飯舘村を中心に訪問し、中間貯蔵施設見学にも参加予定です。

詳細は通信131号にて報告予定です。

お楽しみに！

ボランティア のご紹介

東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科 1年
大島妃南子さん



高校生の頃からお世話になっている川原先生のご縁で今回ボランティアに参加させていただきました。私自身、環境問題に興味があるものの、エネルギー課題や原発、震災について知らない点が多く、この機会に深く知りたと思いました。また、亡き祖父母が広島と長崎出身で被爆を経験していることや東日本大震災について、身近にあったことにも関わらずどこか距離を置き、もっと知るべき立場にあるのではないかと思ったのも参加理由の一つです。参加を通して自分なりの考えや思いと見つめ合い、今後のまなびに繋げていけたらと思います。

2022年度 事業・決算報告

2月18日(土)に2023年度通常総会を開催し、前年度の事業報告・決算報告についての協議、承認がおこなわれましたので簡単にご報告いたします。

*詳しい総会資料は団体ホームページで公開しています。

2022年度事業報告

1)チェルノブイリ原発事故の被災者及び被災地に対する支援事業

■ベラルーシ訪問事業

・2022年9月にベラルーシ共和国を訪問予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

■被災者と障がい者による福祉工房「のぞみ21」支援事業

・活動支援、木工品やリネン製品の仕入れ、日本国内での販売

■ウクライナ難民支援

・獨協医科大学国際疫学研究室 福島分室 室長 木村真三先生が設立された「ウクライナ難民人道支援基金 ふくしまキャンプ(現:一般社団法人 ヒューマニタリアン・サポート)」の募金受け入れ

*団体の法人化に伴い募金の受け入れは11月30日で終了

2)日本国内での原子力災害などによる被災者及び被災地に対する支援事業

■東日本大震災の被災地訪問調査

・2022年3月20日(日)～3月30日(水)、9月3日(土)～9月8日(木)に福島県を訪問
2022年2月6日(土)および2022年10月29日(土)に報告会を開催



3)被災地及び被災地の現状を周知するための普及啓発活動

■「チェルノブイリ通信」発行事業(年4回発行)

・発行時期:3, 6, 9, 12月

・発送部数:2, 266～2, 946部(メール配信を除く)

■イベント企画・運営事業

・グリーンコープ生協組合員様を対象とした木村真三先生のオンライン講演会を計19回実施

・フクネット紹介パネル展

2022年2月1日(火)～2月6日(日)に実施(福岡市役所1F多目的スペース)

■その他の情報発信事業

・団体ウェブサイト、SNSでの情報発信、イベント等での活動紹介



フクネット紹介パネル展



9条まつり

4)フェアトレード事業

■チェルノブイリ支援コーヒー、紅茶の販売

2022年度決算報告(2022/1/1~12/31・予算対比)

(単位：円)

科目	2022年度決算			2022年度予算		
経常収益						
1. 受取会費	45,000	45,000		60,000	60,000	
2. 受取寄付金						
活動支援金	10,595,548			6,500,000		
のぞみ21カンパ	83,000			60,000		
雪だるま3号カンパ	77,000			50,000		
震災支援カンパ	123,500			170,000		
ウクライナ	12,483,439	23,362,487		0	6,780,000	
3. 事業収益						
のぞみ21支援事業	13,400			50,000		
フェアトレード事業	786,700	800,100		650,000	700,000	
4. その他収益	414,570	414,570		10,000	10,000	
経常収益計			24,622,157			7,550,000
経常費用						
1. 事業費(*)						
訪ベラ事業	72,946			6,223,020		
のぞみ21支援事業	125,175			123,350		
震災支援事業	2,141,955			2,136,700		
会報発行事業	2,994,791			2,343,430		
イベント企画・運営事業	724,914			250,000		
その他の情報提供事業	123,719			120,000		
ウクライナ人道支援事業	13,617,764			0		
フェアトレード事業	687,982	20,489,246		695,150	11,891,650	
2. 管理費						
人件費	146,112			10,550		
その他経費	587,856	733,968		226,800	2,37,350	
経常費用計			21,223,214			12,129,000
当期経常増減額			3,398,943			-4,579,000
税引前当期正味財産増減額			3,398,943			-4,579,000
法人税、住民税及び事業税			71,000			71,000
当期正味財産増減額			3,327,943			-4,650,000
前期繰越正味財産額			24,562,427			24,562,247
時期繰越正味財産額			27,890,370			19,912,427

(*) 人件費を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。

2023年度の運営体制は次のとおりです。

理事長 : 寺嶋 可南子

副理事長 : 和田 幸策

理事 : 河上 雅夫、中山 悠、川原 秀之

事務局長 : 川原 秀之

幹事 : 三島 さとこ

たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計 667,896円

- *活動支援金 469,496円
- *のぞみ21カンパ 5,000円
- *雪だるま3号カンパ 0円
- *東日本支援カンパ 41,500円
- *おまかせカンパ 37,000円
- *ウクライナカンパ 114,900円

(2022年11月～2023年1月分の寄付内訳)

●口座受付寄付

浅原望樹 池永修 石川睦枝 井上和子 榎本みつ枝 沖佐
和子 小野 直子 佐藤和子 渋谷けい子 高嶋幸雄 高橋
武三 田中直子 佃あけみ 長棟かおる 中村幸枝 少年少
女みなみ 久保山菜摘・久保山千可子 引田良子 藤井真弓
古本募金きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社) 幣旗恵美子
松井岩美 村上和代 諸隈啓子 友愛幼稚園 藤田房二和
田由理 和田茉莉恵

〔都道府県別〕

青森県 1名 福島県 2名 福井県 1名
東京都 1名 栃木県 1名 長野県 1名
静岡県 2名 大阪府 1名 兵庫県 1名
鳥取県 1名 高根県 4名 広島県 4名
山口県 3名 愛媛県 1名 福岡県 27名
佐賀県 2名 熊本県 2名 大分県 5名
宮崎県 1名 鹿児島県 3名 計65名(匿名含む)

●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井
上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久
保伸子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子
片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川
崎君子 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚
子 財津耐代子 財津悠子 齊藤美代子 阪口香奈子 佐々
野也依 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永
浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京
子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史
鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ
永野沙智子 西首延子 納富育代 深川哲臣 福井初子 福
本勅子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木
幸美 松永庸子 丸山子より 水本敬子 三野桂子 宮野義
治 村西美由紀 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔
吉田美抄子 渡邊久美子

計108名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、ありがとうございます。皆
様よりお預かりしたご寄付は、チエルノブイリ被災者医療支
援、福祉工房のぞみ21支援、東日本震災被災者支援、事務
費用等にあてさせていただきます。

※通信へのお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、ご紹介して
おります。

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●コロナにインフルエンザ この冬はまた大変そうです
がスタッフの皆さま お体大切に。●先日 木村真三
先生の記事が読みたくて通信127号と128号を
送っていただきました。その代金として2,000円寄
付します。ありがとうございます。●お働きがこれ
からも支えられますように●ありがとうございます
た。年末年始お元気で過ごして下さい。新年はよき
年になりますように●ほんの少しですが、自分のしあ
わせに感謝して……。

お知らせとお願い

振込 用紙は原則として毎月同封
しています。これは、思い立っ
た時にいつでも振り込みできるように、毎月
同封してほしいというご要望があったからで
す。決してお振込を強要するものではありません。
決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処
分をお願いいたします。

住所 を変更された方は、事務局
までお知らせください。なお
今後の資料送付がご不要の場合は、お手数
ですが、事務局までその旨ご連絡ください。

編集後記

梅の花も咲き、春の足音を感じる今日この頃です。春を告げるニュースは気持ちも明るくなりますね！
無事に総会も終わり、1年の活動を締めくくることができました。今年も気持ちを新たに頑張ってい
うと思えますので、どうぞよろしく願っています。(K・T)